

瑞色含春



瑞色含春 (すいしよくかんしゅん)

めでたい兆しが春の気配を含んでいる。

世界中の隅々まで

平和で幸せな年でありますように

新春の御祝詞を申し上げます。



新年のご挨拶

理事長 沼田 雅博

2025年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は私ども北陸経済研究所の活動に、格別のご支援、ご協力を賜りましたことを心から御礼申し上げます。

昨年、北陸は能登半島を中心とする大規模な地震に見舞われました。震災から1年を経て、発災直後の混乱からは落ち着きつつあるものの、9月に奥能登を襲った豪雨被害も重なり、地域の復旧・復興はいまだ途上と言わざるを得ません。被災された多くの方々には、心よりお見舞い申し上げ、平穏な生活を少しずつでも取り戻されることをお祈りいたします。

災害に伴い大きなダメージを受けた北陸経済でしたが、復興支援に向けた多くの施策に加えて、北陸新幹線敦賀延伸の効果が相まって、北陸全体としては持ち堪えた状況で推移したと考えられます。本誌においてもシリーズ企画として取り上げましたが、新幹線開業により得られた効果は、各地域において尽力された関係方々の熱意と行動による周到な準備が大いに奏功したものです。これを契機として、首都圏や沿線地域との繋がりが一層深まり、加えて北陸3県のさらなる連携によって、息の長い地域振興が図られることを切に願っています。

さて、現在の日本経済をみるに、モノの値上がりは鮮明であり、このインフレ傾向が続くことを前提に今後の企業運営について考えるべきでしょう。モノの値段が下がり縮小均衡に陥りがちであったデフレの状況とは異なり、インフレ時代においては物価も賃金も上昇します。先手を打つ行動が不可欠であり、その為には先々を見越す予見性がこれまで以上に重要となります。

また、人口減少を背景とする人手不足は、もはや構造的な問題として厳しさが増すと云わざるを得ません。すでに多くの企業が、デジタル化の推進などで効率化を図り、労働力不足の克服に向けて取り組んでおられると承知しますが、働く人の絶対数が減るなかでは、とくに専門分野における人材は奪い合いとなり、質的面でリソース不足が生じることも想定されます。単独で事業を完遂する難易度は高くなり、せっかくのビジネスチャンスを逸失しかねないケースもあるでしょう。厳しい現実を直視しつつ、成長に向けた戦略を築くうえで、過去からの慣習や枠組みを超えた「連携・協調・協働」が課題解決に向けた一つの「解」になると思われます。

今年の干支は「乙巳（きのとみ）」。脱皮して成長する蛇に由来して、再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展する年にしたいものです。

日本あるいは米国の新政権が本格的に動き始めるなか、より具体的な政策が示されることで、われわれの身近にもさまざまな変化が起きると考えます。逐次、これらに対処していく一年になるでしょうが、当研究所は民間シンクタンクとしての情報発信・提言を続け、北陸の確かな未来を地域とともに創造する「価値共創」の理念を実現すべく努めてまいります。末筆ながら、本年が皆さまにとって良い一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。